

現の街で。

—江 弘毅

Q—このところ入ってる店とダメな店の違いがはっきりしてきたと思わない?

A—いえる。とくに神戸なんか、トア・ウエストっていうのほら元町と三宮の山側周辺にバーがたまってあるやない。あと北野とか完全に流行ってる店とカラオケの店が分かれてきたみたい。

Q—ミニミヤったら、巖谷にオシャレ路線のバーが、それこそクサるほどあるけど、一部を除いてどうも入ってないみたい。完璧に即年代後半のあの時代は終わった、と感じます。

A—なんやらコンティとか、なんちゃらニーノみたいな、イタリア語のバーって、ちよっとかわいそうやね。

Q—それだけで「ちよっとなあ」と感じやもんね。神戸やったらどんな店がよくて、どんな店が今あかんのかなあ。

A—とにかくイタリアン・モダンみたいなオシャレのコンセプトの店はあかんみたい。変なデザインやイースやオフシエや、あれって一体何やっちゃんやろ。でも、本来の水商売の部分でかちり客をつかんでるとこはまたええのとちよつかなあ。

Q—たとえばバーテンダーが面白いとか、めっちゃハンサムとか。その基本はやっぱり新地と同じ

なじやっちゃんやねえ。
 A—うん。でも同んなじやったら、いっこもオモロない。

Q—面白くない。オッサンや。A—神戸は基本的にミニミヤ京都よりも、遊びに関しては全くイナカ体質やから、全体的にとかく店はモッサイと思う。雑誌やテレビで流通してるイメージやなくて、まだ日本酒と和風BGMはジャズ、だからオシャレしてしま、みたいなとこも多い。ただ安いだけの小僧のバーも多い。そしてそれが流行ってる。

Q—小僧のバーか。ハーバー・シヨット480円。女の子にはピーチツリー・フィズ。
 A—カシス・ソーダちゅうのもある。

Q—店やってる方も客の方も幼稚極まりない。Tシャツに大リーグの帽子がぶってる少年ハーバーにCCカールズの3〜4人連れ。おでかけやからお洒落してくる。Oでも女子大生のノリ。横から見ると、変なかんじ。

A—安いだけ、アメリカンな軽いノリだけかとりえなんや。でも特徴ある店は流行ってるよ。新しいジャズやらボサノヴァなんかをしっかりと流してるとか、すこいレールの店。あと何十年とか長い時間で、酒場として熟成されてる店は絶対強い。

Q—そう。それはどこでも同じ。誰かがデザインしたとか、ポストモダンでどうのこうのとかが、やっぱり足腰が弱かった。A—そいつら一体これから店に

対してどう落とすし前つけるんなあ。結構力ネかけてる店が多いから、ハイ改装します、コンセプト変えます、なんてナカナ力行かないと思うんだけど。
 Q—北野のコンクリート打ちっ放しのビルにあるバーなんて、今どうしてるの。もう十分に元取って、安泰なんかなあ。
 A—いや、そんなことないと思う。やっぱり家賃やら高いし、出ていってるごっこも多いんじがうかなあ。イタモンの服屋なんかと同じ路線やと思うけど。
 Q—オシャレやったら絶対流行る。という図式が破綻してしまってる。もとも本場にオシャレやっただかどうかは今、考えてもわからないけど。
 A—うさん臭いオシャレちゅうやつやね。記号の上滑りみたいなか何というかほんとにバカみたい。Q—いっつも不動産業のニオイがした。それに建築やらインテリアやらがお洒落路線でからんでくる……そんな街やないの。
 A—でもそれにキミらが観光客のノリでのっかってきた。だから話はよけいややこしい。

フクロイール江 弘毅はじつによく生きてる。ボジティブな人、人が好きだから、彼は出ていって人、人、現象の胸ぐらをつかみ揺する。私も7年前に初めて彼と会った時は泣かされた。その後も何度か泣かされたが彼も何度か泣いてた。彼は今、「ミーツ・ジョナル」で街を現を揺すり続けている。彼が泣きながら揺すり続けている。彼が泣きながら揺すり続けている。彼の仕事を欲求しているのだから。記号じゃなくフケを知ろうとする彼は正味で恰好ええ男である。(ハッキー・イフエ)

ビールセグメンテーション

—内川正彦



ビールの旨い季節がやってきた。ほんと最初の一杯くらいしか旨いと思ってる。だか、俺は「夏だけビール」なのだ。まあ一年中カンビールを抱えて飲んでるウチの高木店長なんかの気持ちもわからないわけではないのだが、いつだったかビールのひどい宿酔いをヤッたからは今日のように「夏だけビール」の人となってる。ビールと言えは以前ドイツで立ち寄った小さな町のピストロで「もっとならしたビールはないのか」と言ったところおっさんに「そんなビールはない」と怒られた憶えがある。その時出されたソーセージとじゃがいもはとつても旨かったのにおのめらる。ビールのおかげでせつかくの食事が台無しだったと後で友人に話したら、ドイツではビールをそんなにキンキンに冷やして飲む人はいないそう。何も知らなかつた俺がバカだったと反

省した事もあった。まあ我が国ではビールに氷を入れて飲む人もいたりとその飲み方について今さらガタガタ言う人もいないだろうが、この夏に向かっ旨いビールの飲み方について考えてみたい。

先づ、日本のビールが世界に誇れるおもしろさだつてことを再認識するところからはじめよう、全てにおいてブランド指向の我が国ではあるが、今さらクアーズがどうとかハイネケンがどうとか言う奴の気がしれない。逆に、「俺はエビスしか飲まない」、「いつてツッパツの奴の方が好きだ。酒飲みの一入としてファッションで飲んでいく奴等は嫌いだから……」。

もうだいぶ前から市民権を得ているビールではあるがこれからはT・P・Oに合わせた飲み分けの時代になるだろう。例えばスポーツの後やレジャー、又会社帰りにビアホールやBARで飲めるのとはそれそれと味もふた味も違つたろう。その時々々の時間や空間に合ったタイプのビール選びとグラスや料理の選び方が問われるんじゃないかな。

今までみたいに、「俺はコレ的な飲み方もいいけど、ビールもいるなタイプがあるんだからもつと楽しみ方を変えない」とつまらないんじゃない、多用途する時代に合わせたビールもチヨイスして飲むような時代になると思うが……。

それとアテがビールの味を引き立てるノ、ことを忘れてはい

けない。和風に季節のものを少しすつ……今なら塩焼きとかで飲むのもよし、ソーセージとゆで上げたじゃがいもで飲むもよし……この辺でその時間と気分を味わうのが正統派というところか。その人の趣味とか生活感なんか表われてくるのもビールが我が国の生活に深く根ざしている証拠ではないだろうか。日本酒は飲めなくてもビールは飲める人が増えている一方で、なぜ本場に味わって美味しく飲んでいる人が少ないのだろうか……。最近、ビール会社が限定生産でコスト高の旨いビールをつくらせてファンを増やそうとしている。そのクオリティの高いビールをこ存じだろつかいつてチエックしておかないと大変なことなる。CMにも顔を出さないこれらのワインディングビールを飲まずして今日のビールは語れないだろう。とんねるずやジョーケンや緒形拳の登場するCMのビールばかりが気になるさ時世だが、うかうかしてると、宿酔いの落とし穴が……。

フクロイール 1980.4.18 生 長野出身。GARRENDEN/ROJ オールナイター・チーフコック。インアントヤン退社後、イタリア料理修業。インドなどを旅した後、帰郷し自営のBEERGM ANをOPEN。その間、JBAの全員他、ソムリエの講座にてWINEを学ぶ。他に、他にも生け花・草月流に通ず。又、この頃ジャズ・ベーン・河上修氏と出会う。数々のイベントを企画する。その後、長野を中心に東京・大阪・京都など、口として観光客になる。60年代、Nオーン時より京都在住。現在に至る。